

朝、目を覚ました時にあなたは何を思いますか。「今日も一日頑張るか」と伸びをしながら一日のスタートを切る人、「だるいし学校行きたくないな」と眠い目をこすりながらも準備を始める人。皆さんそれぞれの朝を過ごしていると思います。私は学校で友達と話す時間、そして寝ることが大好きです。そんな私は、毎朝、学校へ行って、たわいもない話で友達と笑い合っ、夜にまたベッドに入る瞬間を楽しみに思いながら体を起こします。平凡だからこそ温かい、しかし私にはとても色鮮やかな毎日です。でも、この何気ない朝から始まる温かな毎日があるのは、あの頃の日々があったからだ、今の私は思うのです。

あの頃というのは、私が中学一年生の冬、数ヶ月間入院していたときのことで。パンデミックによる空白期間を経て、通常よりも遅れて始まった学校生活に、私はなかなか馴染むことができませんでした。友達との会話の中で、みんなに合わせて笑っているだけの私。本当は話すことが大好きなのに、誰かに話しかけることができない私。そんな自分に私自身が不安になりました。朝、目が覚めて最初に考えること、それは、「行ってきます」と家を出て、「ただいま」と帰ってくるまでの学校で過ごす時間。その時間の中に、誰かと話すことへの期待や班のみんなで食べる給食の楽しみはありませんでした。心に不安を残したまま春は終わって、状況を変えることができず夏、秋と過ごすうちに、私は段々と食欲不振になって、結果的に入院することになりました。

入院が始まって、それまで私を取り囲んでいた不慣れた環境から離れたら、心の中にある不安もなくなって、きっと全てが元通りに戻るだろうと思っていました。しかし、そう上手くはいかなかった。私は、すぐにはそれまでの自分を取り戻すことができませんでした。なぜでしょうか。

それは、私が持つ「色」を、私自身が見失っていたからです。

気づかせてくれたのは、クラスみんなからの一枚の色紙でした。「戻ってきたら、また部活で一緒に走ろう。」「おっとりした話し方で場を和ませてくれてありがとう。」「頑張り過ぎないようにね。」私に向けられた一つひとつのメッセージは夜に浮かぶ星たちのように私の心を照らしてくれました。安心感に心が包まれたその感覚を私は忘れません。私にはどのような個性があるのか、何が得意で何が苦手なのか、私を形作る様々な要素をその色紙は教えてくれました。見失っていた「色」を取り戻した瞬間です。

私はマイペースで恥ずかしがりです。ただ、こうして大勢の方々の前で何かを伝える度胸はあります。それから、私はダンスが得意。でも、それ以外のスポーツはそこまで上手ではありません。どれも私の大切な「色」であり、何ひとつ欠かせないものです。

先日、朝日新聞で、小中高生の自殺者数を取り上げた記事を目にしました。昨年の小中高生の自殺者数は統計開始以来、過去最多にのぼったという内容を記したその新聞に私は心が痛みました。静かな悲しみの後、心に深く残ったのは、一人でも多くの人に私の思いを伝えたいということでした。いじめや家庭問題、将来への不安。想像もできないほどの苦しみの中で、「死にたい」そう思うことがあるかもしれません。しかし、今ここにいるのは、この瞬間も、一生懸命に生きているあなただということを忘れないでください。あなたが、自ら命を絶たないことを私は心から願います。私達は誰しも、「生きる権利」と共に、それぞれの「色」を持っています。どうかあなたが持つ素敵な「色」を消さないでください。あなたを、そして周りの人を輝かせられるその「色」を。あなたの「色」を必要とする人が、あなたの近くに必ずいます。

最後に目を閉じてみてください。そこに広がる真っ暗な世界は、あなたを大切に思う人が、あなたを失った後に見る世界です。そしてあなたの「色」はその世界を照らす一筋の光なのです。

あなたの「色」はどんな色ですか。